

【 専門分野 小児看護学 】

科目		単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
子どもの特性と成長・発達		1	15 時間 (8 回)	2 年次・前期	白樫 亜由美
学習目標	1. 子どもの権利、小児看護の対象として子どもを理解できる 2. 子どもを取り巻く環境、その家族について理解できる 3. 子どもの成長・発達の特徴を日常生活行動と結び付けて理解できる 4. 子どもの各発達段階の栄養の特徴について理解できる 5. 小児看護の特徴を必要な成長発達理論の基礎を理解し、看護を考えることができる				
	D <input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■ 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 P <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 と ■ 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 の ■ 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 関 ■ 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の 保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 連 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 小児看護の特徴と理念 1) 子どもの理解 2) 子どもを取り巻く環境 3) 小児看護の変遷 4) 小児看護の問題点と課題	講義	5 回	1. 家族の特徴とアセスメント 2. 子どもと家族を取り巻く社会環境 1) 子どもの虐待 2) 感染症対策 3) 学校保健 4) 予防接種 5) 子どもと家族の諸統計	講義 講義
2 回	2. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3. 成長・発達に影響する因子 4. 小児看護で用いられる理論の概要 (ピアジェ、エリクソン)	講義	6 回 7 回	1. 乳児期の成長発達について 2. 幼児期の成長発達について 3. 子どもの気持ちになって一緒に遊ぼう	講義 (保育士)
3 回 4 回	1. 発達課題に応じた日常生活への援助 1) 乳幼児の生活と援助 2) 幼児期の生活と援助 3) 学童期の生活と援助 4) 思春期の生活と援助	講義 講義	8 回	終講試験	試験
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)		

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもに起こりうる主な病気と看護	1	30 時間 (15 回) ① 10 時間 (5 回) ② 10 時間 (5 回) ③ 8 時間 (4 回)	2 年次・前期	① 黒川 智子 ② 井手 見名子 ③ 川崎 英史	
学習 目標	1. 子どもに特徴的な代表疾患の病態、症状、診断、治療について理解する (内科・外科疾患)				
D P と の 関 連	<p>■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</p> <p>■2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</p> <p>□3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</p> <p>■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</p> <p>■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</p> <p>□6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</p> <p>□7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</p>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (黒川)	1. 染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	講義	9 回 (井手)	9. 消化器疾患 ・急性胃腸炎、急性虫垂炎	講義
2 回 (黒川)	2. 新生児看護 ・新生児の疾患、低出生体重児、成熟異常	講義	10 回 (井手)	10. 血液・造血器疾患 ・貧血、出血性疾患	講義
3 回 (黒川)	3. 代謝性疾患 ・先天性代謝異常症 ・I 型糖尿病	講義	11 回 (川崎)	11. 悪性新生物の診断治療 ・急性リンパ性白血病 ・急性骨髄性白血病	講義
4 回 (黒川)	4. 内分泌疾患 ・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺、副腎疾患	講義	12 回 (川崎)	12. 腎・泌尿器 ・ネフローゼ、慢性腎炎 ・急性糸球体腎炎	講義
5 回 (黒川)	5. 免疫・アレルギー	講義	13 回 (川崎)	13. 神経疾患 ・けいれん性疾患、脳性麻痺	講義
6 回 (井手)	6. 感染症 ・ウイルス、細菌、真菌	講義	14 回 (川崎)	14. 運動器疾患 ・先天性股関節脱臼 ・先天性内反足	講義
7 回 (井手)	7. 呼吸器疾患 ・急性咽頭炎、急性気管支炎、マイコプラズマ肺炎	講義	15 回 (川崎)	15. 感覚器疾患 16. 精神疾患 ・発達障害	講義
8 回 (井手)	8. 循環器疾患 ・先天性心疾患、川崎病、後天性の心疾患	講義	17. 事故・外傷 まとめ・終講試験		講義
評価 方法	筆記試験 100 点 (①70 点 ②30 点)	教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院)		

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもへの看護技術	1	30 時間 (14 回)	2 年次・後期	白樫 亜由美	
学習目標	1. 子どもを一人の人と捉え、健康障害および診断・治療に関する基礎的知識を理解する 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する 3. 小児看護に必要な看護技術を習得する 4. 身体機能の未熟性の伴う症状・状態や疾患管理、治療過程への影響を理解する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■ 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■ 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■ 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■ 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■ 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■ 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. アセスメントに必要な技術 コミュニケーション ・発達段階、家族へのコミュニケーションの方法	講義 GW	8 回	・入院中の子どもと家族への看護 ・外来における子どもと家族への看護	講義・ GW
2 回	2. バイタルサインと測定	講義・演習	9 回	6. 日常生活制限を必要とする子どもと家族への看護	講義・ GW
3 回	・体温、呼吸、血圧、脈拍	講義・演習	10 回	・身体的、心理的影響	講義・ GW
4 回	測定、身体計測、身長、体重、頭囲計測	講義・ 演習	11 回	・活動制限、食事制限	講義・ 演習
5 回	3. 身体的アセスメント ・一般状態、呼吸 ・循環器系、腹部	講義・ 演習	12 回	7. 急性期にある子どもと家族への看護	講義・ 演習
6 回	4. 健康障害を持つ子どもと家族への看護 ・健康障害を持つ子どもの理解、家族のストレス	講義・ 演習	13 回	8. 呼吸困難時のアセスメント	講義・ 演習
7 回	・家族を支える看護	講義・ 演習	14 回	9. 脱水時（嘔吐、下痢）のアセスメント	講義・ 演習
	5. 子どもに望ましい環境づくり ・治療、感染防止 ・安全、安楽の視点	講義・ GW	15 回	10. 痙攣時、貧血時のアセスメントと看護 11. 痛みのある子どもと家族の看護	講義・ 講義
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	まとめ 終講試験 試験 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)		

【 専門分野 小児看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
子どもと親への看護	1	15 時間 (8 回) ① 8 時間 (4 回) ② 6 時間 (3 回)	2 年次・後期	① 福元 由香 ② 白樫 亜由美	
学習目標	1. 子どもの成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する 2. 疾患に特有の治療から心身への影響と経過別の看護を理解する 3. 治療・長期療養が必要となる子どもの発達・セルフケアを促す看護を理解する 4. 事例をもとに健康障害をもつ子どもの看護過程を展開する				
連携	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (福元)	1. 治療処置・検査をうける子どもと家族への看護 ・薬物療法、検査の介助 プレパレーション、抑制、呼吸管理、救命救急	講義・GW	5 回 (白樫)	5) 血液・造血器疾患 6) 神経疾患	演習
2 回 (福元)	2. 周手術期の子どもと家族の看護	講義	6 回 (白樫)	5. 気管支喘息患児の看護過程	演習
3 回 (福元)	3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 ・慢性期、終末期	講義	7 回 (白樫)	1) 情報とアセスメントの視点 2) 看護問題・看護目標・計画・実践・評価	演習
4 回 (福元)	4. 疾患別にみた子どもと家族の看護 1) 呼吸器疾患 2) アレルギー疾患 3) I 型糖尿病 4) 腎臓疾患	講義・DVD 講義	8 回 (白樫)	終講試験	試験
評価方法	筆記試験 100 点 (① 70 点 ② 30 点)		教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学[2]小児臨床看護各論 (医学書院)	